

3-2 考古学

研究・教育活動の概要と特色

考古学専攻分野は、戦前の奥羽史料調査部の考古学研究に根ざし、1957年の講座設置以来、東北地方における中心的な考古学研究教育機関としての、長い伝統を発展させています。遺跡・遺物の調査に基づく実証主義の学風をよく継承し、地域の自治体などとも連携し、先端的な調査・分析・報告を続けています。近年10年間においても、旧石器、縄文、弥生、古墳、古代の各時代の遺跡ともに、発掘調査等の研究対象としてきました。遺跡の高精度な調査、遺物の問題志向的な分析を重ねています。また、旧石器時代遺跡の調査方法、先史文化の比較研究、先史集落の研究、地域性の解明、型式学・技術論・機能論の深化、遺物の材質分析、なども重点的テーマとし、研究を進めています。米国、ロシア、中国、韓国などとの研究交流も活発に行なっています。

考古学陳列館・標本室に総数20万点以上の、考古学収蔵資料の蓄積を有し、各時代の基準資料に優れ、これらは教育にも活用しています。収蔵資料のデータベース化を順次、着実に進めています。重要資料は、博物館の特別展示等、全国的に公開されています。大学院修了生、学部卒業生ともに、多数が研究者、学芸員、文化財調査員など、専門職の進路を選択して活躍しています。東北歴史博物館、多賀城跡調査研究所との連携大学院である「文化財科学専攻分野」とは緊密に協力して、教育成果を上げていますので、以下の諸表での該当項目は、両専攻分野を併記してありますことを、申し添えます。

組織

1 教員数(2011年9月末現在)

考古学

教授：1

准教授：1

講師：0

助教：1

教授：阿子島香

准教授：鹿又喜隆

助教：佐野勝宏

文化財科学

客員教授：2

客員准教授：1

客員教授：佐藤則之、笠原信男

客員准教授：古川一明

2 在学生数（2011年9月末現在）

考古学

学部 (2年次以上)	学部 研究生	大学院博士 前期	大学院博士 後期	大学院 研究生
13	0	4	3	0

文化財科学

学部 (2年次以上)	学部 研究生	大学院博士 前期	大学院博士 後期	大学院 研究生
-	-	2	0	0

(文化財科学は、大学院のみで、学部課程はありません)

3 修了生・卒業生数（2007～2011年度）

考古学

年度	学部卒業生	大学院博士課程 前期修了者	大学院博士課程 後期修了者 (含満期退学者)
07	4	4	0
08	1	0	0
09	7	0	0
10	6	3	0
11	0	0	0
計	18	7	0

* 2011 年度は、9 月末までの数字

文化財科学

年度	学部卒業生	大学院博士課程前期修了者	大学院博士課程後期修了者 (満期退学者)	博士学位授与者
07	-	1	0	0
08	-	0	0	0
09	-	0	0	0
10	-	0	0	0
11	-	0	0	0
計	-	1	0	0

* 2011 年度は、9 月末までの数字

過去 5 年間の組織としての研究・教育活動 (2006 ~ 2010 年度)

1 博士学位授与

1-1 課程博士・論文博士授与件数

年度	課程博士授与件数	論文博士授与件数	計
07	0	1	1
08	0	0	0
09	0	1	1
10	0	0	0
11	0	0	0
計	0	2	2

* 2011 年度は、9 月末までの数字

1-2 博士論文提出者氏名、年度、題目、審査委員

山口博之、2006 年度、『中世奥羽社会の特質と地域性についての考古学的研究』

審査委員：教授・須藤隆(主査)、教授・阿子島香、教授・今泉隆雄、助教授・柳原敏昭

木本元治、2007 年度、『東日本における郡家遺跡の出現と律令制地方支配の確立』

審査委員：教授・阿子島香(主査)、教授・今泉隆雄、教授・柳田俊雄

水沢教子、2009 年度、『縄文社会における土器の移動と交流』

審査員：教授・阿子島香（主査）、教授・今泉隆雄、教授・柳田俊雄

2 大学院生等による論文発表

2-1 論文数（考古学と文化財科学を併せたもの）

年度	審査制学術誌 （学会誌等）	非審査制誌 （紀要等）	論文集 （単行本）	その他	計
07	0	0	1	2	3
08	2	0	0	0	2
09	2	4	0	2	8
10	2	2	0	6	10
11	0	1	0	23	24
計	6	7	1	33	47

* 2011年度は9月末までの数字。ただし、以後の掲載が決定しているものも含む。

2-2 口頭発表数（考古学と文化財科学を併せたもの）

年度	国際学会	国内学会	研究会	その他	計
07	0	1	0	0	1
08	0	2	1	0	3
09	0	5	1	0	6
10	0	3	0	0	3
11	1	1	0	0	2
計	1	12	2	0	15

* 2011年度は9月末までの数字。ただし、以後の発表が決定しているものも含む。

2-3 上記の大学院生等による論文・口頭発表の中の主要業績

(1) 論文

市川健夫 「亀ヶ岡式土器の製作技術と地域性」 『東日本縄文・弥生時代集落の発展と地域性』, 2007

市川健夫 「晩期縄文土器文様における単位と割付に関する一考察 - 久原コレクションの分析から - 」 『考古学談叢』, 2007

市川健夫 「北上川中流域における晩期中葉土器の研究 - 文様の単位と割付を中心に - 」 『岩手県における縄文文化の諸相』, 2007

市川健夫 「北上川中流域における晩期縄文土器文様割付の研究 - 晩期中葉を中心

- に - 」 『文化』 72 - 1・2, 2008
- 小原一成 「縄文時代中後期の埋葬痕跡と遺構群の形成 - 盛岡市上米内遺跡の分析」 『文化』 71 - 3・4, 2008
- 小原一成 「縄文時代後期初頭の埋葬施設と集落 - 岩手県滝沢村けや木の平団地遺跡の分析を通じて - 」 『博古研究』 37, 2009
- 小原一成 「縄文時代における土器埋設遺構研究の視座 - 北上川流域における縄文時代中期中葉の事例をもとに - 」 『歴史』 113, 2009
- 小原一成 「考古学資料論の現状と課題 東北大学文学研究科所蔵考古学資料による社会貢献と歴史資源のアーカイブ 」 『歴史資源アーカイブ国際高度学芸員養成計画 平成 21 年度事業成果報告書』 東北大学大学院文学研究科歴史科学専攻： pp. 306-318 , 2011
- 小田嶋知世・岩田貴之・太田代一彦・小原一成 『八幡遺跡(2006・2007 年度)』 北上市埋蔵文化財調査報告第 98 集, 2009
- 村田弘之・芝康次郎・阿子島香・柳田俊雄 「山形県真室川町丸森 1 遺跡第 1 次発掘調査」 『第 22 回東北日本の旧石器文化を語る会予稿集』, 2008
- 芝康次郎・大場正善・村田弘之・傳田惠隆 「植刃器製作実験とその可能性」 『日本旧石器学会第 7 回講演・研究発表シンポジウム予稿集』, 2009
- 村田弘之・阿子島香・柳田俊雄・鹿又喜隆・市川健夫 「山形県真室川町丸森 1 遺跡第 2 次発掘調査」, 『第 23 回東北日本の旧石器文化を語る会予稿集』 pp.81-87 , 2009
- 鹿又喜隆・村田弘之・傳田惠隆 「鍛冶沢遺跡出土石器の使用痕分析」 『鍛冶沢遺跡』 pp.274-281 宮城県文化財調査報告書第 222 集 , 2010
- 村田弘之 「九州島の細石刃文化研究における方法論上の問題 - 特に編年と型式の関係を巡って - 」 『歴史』 第 114 輯 pp.1-27 , 2010
- 鹿又喜隆・柳田俊雄・阿子島香・佐野勝宏・村田弘之・傳田惠隆 「山形県丸森 1 遺跡第三次発掘調査の概要」, 『東北史学会 2010 年度大会発表要旨』 p.2 , 2010
- 村田弘之 「福井洞穴出土細石刃の機能研究」 『文化』 第 74 巻第 1・2 号： pp. 39-83 , 2010
- 佐野勝宏・鹿又喜隆・村田弘之・阿子島香・柳田俊雄 「山形県舟形町高倉山遺跡第 1 次発掘調査」 『第 24 回東北日本の旧石器文化を語る会予稿集』： pp. 87-92 , 2010

- 村田弘之・柳田俊雄・阿子島香・鹿又喜隆・佐野勝宏「山形県真室川町丸森 1 遺跡第 3 次発掘調査」『第 24 回東北日本の旧石器文化を語る会予稿集』：pp. 81-86 , 2010
- 鹿又喜隆・村田弘之「第 4 節 西浦 B 遺跡出土石器の使用痕分析」『西浦 B 遺跡』蔵王町文化財調査報告書第 10 集：pp.170-173, 2011
- 村田弘之・傳田恵隆「イタリアにおける考古学専攻分野と博物館学の实地研修およびソンマ・ヴェスヴィアーナ発掘調査」『歴史資源アーカイブ国際高度学芸員養成計画 平成 21 年度院生プロジェクト成果報告書』東北大学大学院文学研究科歴史科学専攻：pp. 110-122 , 2011
- 村田弘之・傳田恵隆「北アメリカ更新世・完新世移行期における環境変動と人類適応行動に関する研究 ワイオミング州 Two Moon 洞穴発掘調査概要」『歴史資源アーカイブ国際高度学芸員養成計画 平成 21 年度院生プロジェクト成果報告書』東北大学大学院文学研究科歴史科学専攻：pp. 123-132 , 2011
- 鹿又喜隆・村田弘之・傳田恵隆・小原一成・五十嵐愛「国際フィールドスクール『山形県真室川町埋蔵文化財調査実習』報告」『歴史資源アーカイブ国際高度学芸員養成計画 平成 21 年度事業成果報告書』東北大学大学院文学研究科歴史科学専攻：pp. 131-136 , 2011
- 村田弘之・傳田恵隆・五十嵐愛「フランスにおける考古学・博物館学研修」『歴史資源アーカイブ国際高度学芸員養成計画 平成 21 年度事業成果報告書』東北大学大学院文学研究科歴史科学専攻：pp. 230-244 , 2011
- 村田弘之「長崎県福井洞穴出土資料の現状に関する調査報告」『歴史資源アーカイブ国際高度学芸員養成計画 平成 21 年度事業成果報告書』東北大学大学院文学研究科歴史科学専攻：pp. 256-259 , 2011
- 村田弘之「長崎県福井洞穴出土資料の整備報告」『歴史資源アーカイブ国際高度学芸員養成計画 平成 21 年度事業成果報告書』東北大学大学院文学研究科歴史科学専攻：pp. 352-357 , 2011
- 村田弘之・阿子島香「長崎県福井洞穴出土資料の歴史資源アーカイブ構築」『歴史資源アーカイブ国際高度学芸員養成計画 平成 20～22 年度歴史資源アーカイブ成果報告書』東北大学大学院文学研究科歴史科学専攻：pp. 30-40 , 2011
- 村田弘之・阿子島香「芹沢資料の歴史資源アーカイブ」『歴史資源アーカイブ国際高度学芸員養成計画 平成 20～22 年度歴史資源アーカイブ成果報告書』東北大学大学院文学研究科歴史科学専攻：pp. 41-51 , 2011

- 鹿又喜隆・佐野勝宏・村田弘之・傳田惠隆・五十嵐愛・曹 曉匀「国際フィールドスクール『山形県真室川町埋蔵文化財調査実習』」『歴史資源アーカイブ国際高度学芸員養成計画 平成 22 年度事業成果報告書』東北大学大学院文学研究科歴史科学専攻：pp. 36-46 , 2011
- 村田弘之「宮城県加美町砂坂遺跡発掘調査」『歴史資源アーカイブ国際高度学芸員養成計画 平成 22 年度事業成果報告書』東北大学大学院文学研究科歴史科学専攻：pp.137-138 , 2011
- 村田弘之「山形県舟形町高倉山遺跡発掘調査」『歴史資源アーカイブ国際高度学芸員養成計画 平成 22 年度事業成果報告書』東北大学大学院文学研究科歴史科学専攻：pp.139-140 , 2011
- 村田弘之「東北日本の旧石器文化を語る会での発表」『歴史資源アーカイブ国際高度学芸員養成計画 平成 22 年度事業成果報告書』東北大学大学院文学研究科歴史科学専攻：pp.141-147 , 2011
- 村田弘之「歴史資源アーカイブの研究」『歴史資源アーカイブ国際高度学芸員養成計画 平成 22 年度事業成果報告書』東北大学大学院文学研究科歴史科学専攻：pp.194-197 , 2011
- 村田弘之「フランス先史考古学の方法論について パンスヴァン・エティオール及び諸博物館における研修報告」『歴史資源アーカイブ国際高度学芸員養成計画 平成 22 年度事業成果報告書』東北大学大学院文学研究科歴史科学専攻：pp. 348-353 , 2011
- 傳田惠隆「福島県笹山原 No.16 遺跡出土石器の使用痕分析」, 『第 23 回東北日本の旧石器文化を語る会予稿集』 pp.38-45 ,2009.12
- 鹿又喜隆・傳田惠隆「福島県笹山原 No.8 遺跡の機能研究」, 『第 23 回東北日本の旧石器文化を語る会予稿集』 pp.52-56 ,2009.12.
- 傳田惠隆・村田弘之・芝康次郎・阿子島香 「東北大学基準資料の考え方」『石器使用痕研究会会報』 10, p.5-6 , 2010.3
- 小野章太郎・鹿又喜隆・佐久間光平・傳田惠隆・村田弘之「加美町薬菜山麓の旧石器遺跡(1)―薬菜山 No.17 遺跡―」『宮城考古学』12 pp.181-188 ,2010.5
- 傳田惠隆「ソンマ・ヴェスピアーナ遺跡発掘調査成果学会参加報告」『歴史資源アーカイブ国際高度学芸員養成計画 平成 21 年度事業成果報告書』東北大学大学院文学研究科歴史科学専攻：pp. 260-264 , 2011
- 傳田惠隆「モンゴルにおける Tolbor - 15 遺跡の発掘調査」『歴史資源アーカイブ

国際高度学芸員養成計画 平成 22 年度事業成果報告書』東北大学大学院文学研究科歴史科学専攻：pp. 354-362，2011

傳田惠隆・柳田俊雄・阿子島香・鹿又喜隆・佐野勝宏「山形県舟形町高倉山遺跡第二次発掘調査の概要」『東北史学会 2011 年度大会』p.6，2011

五十嵐愛・傳田惠隆・曹 曉匀「東北大学所蔵の麻生遺跡コレクション」『秋田考古学』第 54 号：pp.1-14 2010

五十嵐愛「秋田・青森両県における縄文時代晩期資料の調査について」『歴史資源アーカイブ国際高度学芸員養成計画 平成 21 年度事業成果報告書』東北大学大学院文学研究科歴史科学専攻：pp. 265-267，2011

五十嵐愛・傳田惠隆・小原一成「博物館展示企画の実践研修 東北大学自然史標本館の人類文化史部門ブース」『歴史資源アーカイブ国際高度学芸員養成計画 平成 21 年度事業成果報告書』東北大学大学院文学研究科歴史科学専攻：pp. 319-334，2011

五十嵐愛「『東北大学所蔵の麻生遺跡コレクション』報告の意義」『歴史資源アーカイブ国際高度学芸員養成計画 平成 20～22 年度歴史資源アーカイブ成果報告書』東北大学大学院文学研究科歴史科学専攻：pp. 72-73，2011

曹 曉匀「連携大学院文化財科学研究実習 II：多賀城における研修」『歴史資源アーカイブ国際高度学芸員養成計画 平成 22 年度事業成果報告書』東北大学大学院文学研究科歴史科学専攻：pp. 87-92，2011

曹 曉匀・傳田惠隆・村田弘之「福島県会津若松市笹山原遺跡 No.16 における発掘調査」『歴史資源アーカイブ国際高度学芸員養成計画 平成 22 年度事業成果報告書』東北大学大学院文学研究科歴史科学専攻：pp. 130-136，2011

(2) 口頭発表

市川健夫 晩期縄文土器における施文技術の研究 - 晩期中葉を中心に - 東北大学文学部考古学研究会第 61 回例会 2006.5.13

市川健夫 晩期縄文土器文様における単位と割付の一様相 - 青森県東津軽郡外ヶ浜町今津遺跡出土資料を中心に - 東北史学会 2006 年度大会 2006.10.8

市川健夫 北上川中流域における晩期中葉土器の研究 - 文様の単位と割付を中心に - 2007 年岩手考古学会第 38 回研究大会 2007.7.29

市川健夫 縄文時代晩期大洞 C2 式土器から見る地域間交流の射程 - 北上川中流域と雄物川上流域の比較分析を通じて - 東北史学会 2008 年度大会 2008.10.5

- 五十嵐愛 晩期縄文時代における煮沸具の機能・用途について 東北史学会 2009 年度大会 2009.10.3
- 小原一成 縄文時代における土器埋設遺構研究の視座 東北史学会 2008 年度大会 2008.10.5
- 小原一成 縄文集落における墓域の形成 東北史学会 2010 年度大会 2010.10.3
- 鹿又喜隆・柳田俊雄・阿子島香・市川健夫・小原一成・村田弘之 山形県丸森 1 遺跡第二次発掘調査の概要 東北史学会 2009 年度大会 2009.10.3
- 傳田恵隆・村田弘之・芝康次郎・阿子島香 東北大学基準資料の考え方 第 14 回石器使用痕研究会 2009.3.7
- 村田弘之・芝康次郎・阿子島香・柳田俊雄 山形県真室川町丸森 1 遺跡第 1 次発掘調査 第 22 回東北日本の旧石器文化を語る会 2008.12.20
- 村田弘之・阿子島香・柳田俊雄・鹿又喜隆・市川健夫 山形県真室川町丸森 1 遺跡第 2 次発掘調査, 第 23 回東北日本の旧石器文化を語る会 2009.12.26
- 芝康次郎・大場正善・村田弘之・傳田恵隆 植刃器製作実験とその可能性 第 7 回日本旧石器学会 2009.6.27(ポスターセッション)
- 傳田恵隆 福島県笹山原 No.16 遺跡出土石器の使用痕分析, 第 23 回東北日本の旧石器文化を語る会 2009.12.26
- 鹿又喜隆・柳田俊雄・阿子島香・佐野勝宏・村田弘之・傳田恵隆 山形県丸森 1 遺跡第三次発掘調査の概要 東北史学会 2010 年度大会 2010.10.3
- 村田弘之・柳田俊雄・阿子島香・鹿又喜隆・佐野勝宏「山形県真室川町丸森 1 遺跡第 3 次発掘調査」第 24 回東北日本の旧石器文化を語る会 2010.12.18-19
- 佐野勝宏・鹿又喜隆・村田弘之・阿子島香・柳田俊雄「山形県舟形町高倉山遺跡第 1 次発掘調査」第 24 回東北日本の旧石器文化を語る会 2010.12.18-19
- 傳田恵隆・柳田俊雄・阿子島香・鹿又喜隆・佐野勝宏「山形県舟形町高倉山遺跡第二次発掘調査の概要」東北史学会 2011 年度大会 2011.10.2
- Sano, Katsuhiro, Yoshitaka Danda, & Masayoshi Ohaba, Experiments in fracture patterns and impact velocity with replica projectile points from Japan, *Multidisciplinary Scientific Approaches to the Study of Stone-Age Weaponry*, Mainz, Germany, September 19th – 22nd, 2011

3 大学院生・学部生等の受賞状況

なし

4 日本学術振興会研究員採択状況

2008年度 PD 受入 1名

5 留学・留学生受け入れ

5-1 大学院生・学部学生等の留学数

2008年度 学部留学生 受入 1名

2009年度 大学院特別研究学生 日仏共同博士課程 受入 1名

2009年度 学部留学生 受入 2名 (2009年度留学生合計4名)

2010年度 大学院特別研究学生 日仏共同博士課程 受入 1名

2010年度 学部留学生 受入 1名 (2010年度留学生合計3名)

(文化財科学を含む)

5-2 留学生の受け入れ状況(学部・大学院)

年度	学部	大学院	計
07	0	0	0
08	1	0	1
09	3	1	4
10	1	2	3
11	1	1	2
計	6	4	10

(文化財科学を含む)

6 社会人大学院生の受け入れ数

年度	前期課程	後期課程	計
07	0	0	0
08	0	0	0
09	0	0	0
10	0	0	0
11	0	0	0
計	0	0	0

7 専攻分野出身の研究者・高度職業人

7-1 専攻分野出身の研究者

古田和誠、宮城県教育庁文化財保護課、2007年度博士課程前期修了
鹿又喜隆、東北大学大学院文学研究科、2005年度博士後期課程単位取得退学
菅野智則、東北大学埋蔵文化財調査室、2004年度博士後期課程単位取得退学
早瀬亮介、(株)加速器分析研究所、2005年度博士後期課程単位取得退学
市川健夫、八戸市教育委員会、2008年度博士課程中途退学
小原一成、多賀城市教育委員会、2011年度以降博士後期課程休学中

7-2 専攻分野出身の高度職業人

村田弘之、長野県長和町教育委員会、2011年度以降博士後期課程休学中
五十嵐愛、仙台市教育委員会、2010年度博士前期課程修了

8 客員研究員の受け入れ状況

中央研究院歴史語言研究所(台湾)副研究員 陳玉美
2005年9月4日~10月9日
ネブラスカ・リンカン大学(アメリカ)教授 Peter Bleed
2006年6月15日~8月1日
サハリン州郷土博物館(ロシア)主任学芸員 Shubin Valery
2009年7月3日~8月31日

9 外国人研究者の受け入れ状況

中国社会科学院考古研究所(中国)副研究員、王小慶 東北大学総合学術博物館客員教授 2007年5月21日~9月19日
中国科学院古脊椎動物与古人類研究所(中国)副研究員・北京市王府井古人類文化遺址博物館(中国)副館長、李超榮 東北大学総合学術博物館客員教授、
2008年5月21日~9月8日
ロシア科学アカデミー・シベリア支部・考古学民族学研究所(ロシア)国際部長・Andrei Tabarev、国際部助手・Elena Solovieva 2009年11月2日~11月12日
パリ第1大学(フランス)・教授・Boris Valentin、CNRS 中央アジア考古学部門(フランス)・助教・Frédérique Brunet 2010年3月29日~4月6日
ロシア科学アカデミー・シベリア支部・考古学民族学研究所(ロシア)国際部

長・Dr.Andrei Tabarev、極東国立大学博物館（ロシア）・考古学民族学部門
長・Dr.Alexander Popov、2010年3月24日～3月27日

河南省文物考古研究所（中国）・研究室主任・李占揚、河南省文物管理局（中
国）・資源局副局長・王瑞琴、許昌市文物局（中国）・副局長・高宇平、2010
年7月21日～7月22日

1 0 刊行物（専攻分野刊行のもの）

『東日本縄文・弥生時代集落の発展と地域性』 2007年

『考古学談叢』 2007年

『考古・民族・歴史学論叢』 2008年

『阿武隈川下流域における縄文貝塚の研究 土浮貝塚』2009年（角田市教育委
員会と共同刊行）

1 1 学会・研究会・講演会・シンポジウム等の開催・事務局等引き受け状況

2007年度

東北史学会考古学部会
宮城県考古学会総会・研究発表会
博古研究会（仙台大会事務局）

2008年度

東北史学会考古学部会
宮城県考古学会総会・研究発表会
石器使用痕研究会総会

2009年度

東北史学会
宮城県考古学会総会・研究発表会

2010年度

東北史学会
宮城県考古学会総会・研究発表会
宮城県考古学会事務局

2011年度

東北史学会
宮城県考古学会事務局

1 2 専攻分野主催の研究会等活動状況

2006 年度

東北大学文学部考古学研究会第 61 回例会(5 月 13 日)

須藤隆先生最終講義「縄文から弥生へ 東北考古学の回顧そして展望」(2007 年 3 月 10 日)

2007 年度

東北大学考古学研究室・東北アジア研究センター合同研究懇談会「ロシア科学アカデミー・シベリア支部と発掘調査の風景」エレナ・ボイテシュカ氏(同支部考古学民族学研究所)(2008 年 1 月 29 日) 東北アジア研究センターと共催

2008 年度

東北大学総合学術博物館・文学研究科考古学研究室合同研究会李超榮氏(中国科学院古脊椎動物与古人類研究所)(2008 年 6 月 18 日・25 日) 東北大学総合学術博物館と共催

李超榮氏 公開講演会「中国の前・中期旧石器時代の新情報」(2008 年 8 月 23 日) 宮城県考古学会旧石器研究会と共催

大学院 GP 国際セミナー マルセル・コーンフェルド氏(ワイオミング大学ジョージフリソン研究所)「First People of the North American Rocky Mountains」(2008 年 12 月 12 日)

石器使用痕研究会総会(共催)(2009 年 3 月 7・8 日)

2009 年度

大学院 GP 国際セミナー アンドレイ・タバレフ氏(ロシア科学アカデミー・シベリア支部・考古学民族学研究所)「Neolithic of the Russian Far East: distribution and chronology, cultures and technologies」(2009 年 11 月 11 日)

大学院 GP 国際セミナー アンドレイ・タバレフ氏(ロシア科学アカデミー・シベリア支部・考古学民族学研究所)「Paleolithic Age of the Russian Far East: Current Stage, Discussions and Problems」(2009 年 11 月 6 日)

学院 GP 国際セミナー アレクサンダ - ・ポポフ氏(ロシア極東国立大学博物館)「Middle Neolithic of the Maritime Region (Primorye): Sites, Cultures, and Landscape」(2010 年 3 月 26 日)

2010 年度

大学院 GP 国際シンポジウム「Technological evolution through the end of the

Paleolithic- A comparative perspective from France –」2010年4月3日

ボリス・バレンタン氏 (パリ第1大学) 「Economic and Technical Evolutions in Northwestern Europe during Lateglacial Times: Focus on the Magdalenian-Azilian Transition in the Parisian Basin (XIVe-XIIe millenium cal B.C.)」

フレデリック・ブルネ氏 (Centre national de la recherche scientifique) 「Variety and Evolution of the Blade Technology in Central Asia from Late Paleolithic to Neolithic : A New Consideration of the Cultural and Economic Processes 」

大学院 GP 国際セミナー 李占揚 (河南省文物考古研究所) 「河南省許昌靈井遺跡の調査と研究」 (2010年7月21日)

1.3 組織としての研究・教育活動に関する過去5年間の自己点検と評価

考古学専攻分野では、組織的な調査、分析研究、報告、教育などの各面は、不即不離で総合的なものという立場で、研究教育活動を進めてきました。考古学専攻分野の教員数は、教授1名、准教授1名、助教1名です。東北大学総合学術博物館の教授1名が協力教員となっています。

在籍学生数は、年により増減がありますが、収容定員数10名に対し、各年1~8名の卒業生を出しています。修士課程は、収容定員数2名に対し、各年1~4名の修了生を出しています。課程博士は、2006年度の提出者が1名(社会人大学院生、授与は2006年度末)となっています。課程博士論文のテーマは、中世東北考古学です。論文博士は、2007年度に1名、2009年度に1名です。テーマは、古代東北の郡家遺跡、縄文土器の胎土分析です。考古学専攻分野は、宮城県立東北歴史博物館、および多賀城跡調査研究所との協定による連携大学院である「文化財科学専攻分野」(客員教授2、客員准教授1)と緊密に協力して教育成果をあげております。収容定員は、各年1名ですが、2005~2009年度で、3名の修士を出しています。卒業生、修了生の進路は、民間企業をはじめ多岐にわたっていますが、考古学、文化財の専門分野の研究者・高度職業人も多く、5年間で7名になります。東北大学、宮城県、仙台市、多賀城市、(株)加速器分析研究所などがあります。

組織としての発掘調査は、5年間のうちに、旧石器時代(山形県真室川町丸森1遺跡・舟形町高倉山遺跡・宮城県加美町砂坂遺跡)、旧石器・縄文・平安時代(福島県会津若松市笹山原 No.16 遺跡への協力)、弥生時代(宮城県白石市和尚堂遺跡への協力)、古墳時代(宮城県丸森町台町古墳群測量調査)、古代(宮城県白石市兀山窯跡

測量と試掘)と各時代の調査を実施しています。また、多賀城跡調査研究所による発掘調査には、毎年、文化財科学研究実習として、院生と希望する学部生が参加しています。調査資料の整理と報告は、継続的に進めており、山形県新庄市上ミ野 A 遺跡、大分県日出町早水台遺跡(総合学術博物館との協力)、宮城県角田市土浮貝塚(角田市教育委員会との協力)、宮城県石巻市梨木畑貝塚、岩手県里槍遺跡の報告書を刊行しています。また大学院生の研究発表は活発であり、5年間で論文等47件、口頭発表15件となっています。地域での学会活動では、宮城県考古学会、東北史学会、東北大学考古学研究会で、運営に参画し、研究発表を行っています。

収蔵資料の整理とデータベース化は、文学研究科歴史科学専攻の「歴史資源プロジェクト」と連動しつつ継続的に進めています。考古学陳列館の主要資料について、約3500件の画像データベース化を行い、考古学標本室収蔵の約7000箱について、資料内容のリスト化を進めました。また、伊東信雄資料のうちサハリン関係資料、山内清男の大木式土器標識資料について、詳細な内容を調査、公開しました。文学研究科所蔵の考古学、民族学資料は、各地博物館の特別展等への貸し出しも増加し、2007年度29件、2008年度37件、2009年度40件、2010年度41件です。2010年度では考古学陳列館に、研究者13名の見学調査を受け入れました。その他に、博物館の特別展・企画展や出版物掲載のための写真撮影等13名を受け入れました。

国際交流では、米国、台湾、ロシアからの客員研究者、また総合学術博物館へのロシア、中国からの客員教授を受け入れ、資料の共同研究を行っています。

教員の研究活動(2007~2011年度)

1 教員による論文発表等

1-1 論文

阿子島香「総論：技術組織論と技術構造論(特集、道具の組織化)」、『考古学ジャーナル』560号, pp.3-5, 2007.7

Akoshima, Kaoru, 「Recent developments of micro use-wear studies on stone tools in Japan」, 『Ancient Hong Kong and East Asia: The fourth international conference on ancient culture of South China and neighboring regions』, pp.25-31, 2007.11

Akoshima, Kaoru. 「Emergence of high-power microwear analysis in Japan, 1976 to 1983: Prof. Serizawa's legacy and beyond」, 『芹沢長介先生追悼 考古・民族・歴史学論叢』, pp.189-207, 2008.3

阿子島香「高倍率法30年の展望から」, 『石器使用痕研究会会報』8, pp.1-4, 2008.3

- 阿子島香 「ジオアーケオロジ-とセトルメントアーケオロジ-の接点 - 欧米での研究から - 」, 比田井民子他編『考古学リーダー14 後期旧石器時代の成立と古環境復元』, 六一書房, pp.109-123, 2008
- Akoshima, Kaoru. 「A tradition of local history at a small castle town in northeastern Japan, 1968 to 1977: Mr. Nakahashi's legacy and beyond」, 『蔵王東麓の郷土誌-中橋彰吾先生追悼論文集』, pp.53-78, 2008
- 市川健夫・小林正史・阿子島香 「岩手県奥州市里鎗遺跡発掘調査報告(土器編)」 『Bulletin of the Tohoku University Museum』 9, 2010
- 阿子島香 「日本石器微痕研究の新進展」(中国語訳) 『東南考古研究』 4, pp.73-87. Xiamen University Press, 2010.3.
- Akoshima, Kaoru. Lithic use-wear analysis: Method and Theory now and then. The 15th International Symposium: Suyanggae and Her Neighbours, pp. 56-62. Institute of Korean Prehistory.
- Akoshima, Kaoru. Integrating Lithic Microwear Data with Site Structure Analysis: An Organizational Approach. Diversity of the Asian Palaeolithic Culture; Recent Progress and New Trends. The 3rd Asian Palaeolithic Association International Symposium, p.61, 2010
- 村田弘之・柳田俊雄・阿子島香・鹿又喜隆・佐野勝宏 「山形県真室川町丸森1遺跡第3次発掘調査」 『第24回東北日本の旧石器文化を語る会予稿集』 : pp. 81-86, 2010
- Yanagida, Toshio, and Akoshima, Kaoru. Preface: Research of the Early Palaeolithic Industry discovered at the Sozudai site, Oita Prefecture, Kyushu Japan (2). Bulletin of the Tohoku University Museum, No. 10, pp.1-8, 2011.3
- Akoshima, Kaoru. Lithic Use-wear Analysis: Method and Theory Now and Then. The 15th International Symposium: SUYANGGAE and Her Neighbours, edited by Yung-jo Lee and Jong-yoon Woo. Danyang County Office and Institute of Korean Prehistory, pp.99-115. 2010.12
- Yanagida, Toshio, and Akoshima, Kaoru. Bifacial Elements in the Japanese Early Palaeolithic industry: the Sozudai site, Kyushu Island. Les cultures a biface du Pleistocene inferieur et moyen dans le monde: the 2nd International Symposium of Bifaces of the Lower and Middle Pleistocene of the World, Jeongok (Chongok) Prehistory Museum, pp.16-21, 2011.4

Akoshima Kaoru and Kanomata Yoshitaka 「Site Structure and Human Behavior at the Araya site, Northeastern Japan」 『*The 16th International Symposium: SUYANGGAE and Her Neighbours in Nihewan*』 pp.64-66, 2011.8.

鹿又喜隆「更新世末から完新世初頭にみられる人類の環境適応 - 東日本の事例から - 」, 『宮城考古学』第9号, pp.1-20, 2007.5

鹿又喜隆「細石刃集団の移動と生業活動 - 細石刃の二次加工にみる遺跡間の関係から - 」, 『須藤隆先生退任記念論文集 考古学談叢』, pp.131-149, 2007.5

鹿又喜隆「細石刃文化期の技術組織の様相」, 『考古学ジャーナル』560, pp.18-23, 2007.7

鹿又喜隆「東北地方における土器出現期の様相」, 『第2回シンポジウム 年代測定と日本文化研究予稿集』, pp.37-48, 2007.9

高原要輔・鹿又喜隆・会田容弘「福島県笹山原 No.27 遺跡にて採取された旧石器時代資料(その1)」, 『福島考古』第49号, pp.93-105, 2008.3

鹿又喜隆「本州東北部にみられる大型両面加工石器群の研究 - 新ドリアス期相当の寒冷環境への人類の適応行動 - 」, 『旧石器考古学』70号, pp.59-70, 2008.7

鹿又喜隆「発掘調査におけるサンプリングの実践と遺跡形成過程の研究 - 福島県笹山原 No.16 遺跡の平安時代住居跡とローム層包含層の調査成果をもとに - 」, 『第3回シンポジウム 年代測定と日本文化研究予稿集』, pp.23-29, 2008.9

鹿又喜隆「東北地方における定住化のプロセス - 旧石器時代終末から縄文時代前期にかけて - 」, 『東北縄文前期社会における集落と生業 予稿集』 pp.17-42, 2008.10

鹿又喜隆「大石田町立歴史民俗資料館所蔵の角二山遺跡細石刃石器群の研究(その2)」, 『山形考古』第8巻第4号, pp.3-6, 2008.10

鹿又喜隆「神子柴・長者久保石器群とその後の時代 - 人類活動と環境変動との対応関係から - 」, 『第22回東北日本の旧石器文化を語る会』, pp.90-107, 2008.12

鹿又喜隆「放射性炭素年代測定の現状」, 『地球科学』63巻, pp.41-43, 2009.1

高原要輔・鹿又喜隆「福島県笹山原 No.27 遺跡にて採取された旧石器時代資料(その2)」, 『福島考古』第50号, pp.1-18, 2009.3

鹿又喜隆「福島県笹山原 No.27 遺跡の細石刃石器群の機能研究」, 『第14回石器

- 使用痕研究会発表要旨』, pp.1-4, 2009.3
- 鹿又喜隆「定住・定着化プロセスからみた東北地方の縄文前期(予察)」『東北縄文社会と生態系史 予稿集』 pp.18-30, 2009.7.
- 鹿又喜隆「縄文時代中期末から後期初頭の配石・立石を伴う住居跡に関する生態学的理解」, 『文化』第73巻1・2号, pp.1-20, 2009.10
- 鹿又喜隆「定住・定着化プロセスからみた東北地方の縄文前期」, 『日本考古学協会 2009年度山形大会資料集』, pp.35-44, 2009.10
- 鹿又喜隆「押出遺跡の石器の機能」, 『日本考古学協会 2009年度山形大会資料集』, pp.153-162, 2009.10
- 鹿又喜隆「福島県笹山原 No.27 遺跡の機能研究」, 『第23回東北日本の旧石器文化を語る会予稿集』 pp.46-51 2009.12.26
- 鹿又喜隆・傳田恵隆「福島県笹山原 No.8 遺跡の機能研究」, 『第23回東北日本の旧石器文化を語る会予稿集』 pp.52-56 2009.12.26
- 村田弘之・阿子島香・柳田俊雄・鹿又喜隆・市川健夫「山形県真室川町丸森1遺跡第2次発掘調査」, 『第23回東北日本の旧石器文化を語る会予稿集』 pp.81-87 2009.12.26
- 鹿又喜隆・村田弘之・傳田恵隆「鍛冶沢遺跡出土石器の使用痕分析」『鍛冶沢遺跡』 pp.274-281 宮城県文化財調査報告書第222集 2010.3.26
- Yoshitaka Kanomata 「The Relationship between Human and Environment from the End of Pleistocene to the Beginning of Holocene in Japan」 『Technological evolution through the end of the Paleolithic - A comparative perspective from France - 』 2010.4.3
- 鹿又喜隆「縄文時代後晩期の石冠の機能に関する一考察」『宮城考古学』12 pp.143-152 2010.5.16
- 小野章太郎・鹿又喜隆・佐久間光平・傳田恵隆・村田弘之「加美町薬菜山麓の旧石器遺跡(1)―薬菜山 No.17 遺跡―」『宮城考古学』12 pp.181-188 2010.5.16
- 鹿又喜隆「更新世最終末の石器集積遺構に含まれる道具の評価―宮城県仙台市野川遺跡の機能研究と複製石器の運搬実験を通して―」『日本考古学』30号 pp.47-63 2010.10.
- Kanomata Yoshitaka 「Functional Versatility of Tools in Microblade Industries」 『Diversity of the Asian Palaeolithic Culture: Recent Progress and New Trends』 The 3rd Asian Palaeolithic Association International Symposium、

p.39 2011.10.

鹿又喜隆「後期旧石器時代前半期石器群の機能的考察」『第24回東北日本の旧石器文化を語る会予稿集』pp.57-69, 2010.12.18

鹿又喜隆・村田弘之「第4節 西浦B遺跡出土石器の使用痕分析」『西浦B遺跡』蔵王町文化財調査報告書第10集：pp.170-173, 2011.1.31

鹿又喜隆「考古学における実物資料の蓄積を通じた学術的・教育的効果」『歴史資源アーカイブ国際高度学芸員養成計画 平成20～22年度歴史資源アーカイブ成果報告書』東北大学大学院文学研究科歴史科学専攻：pp.52-58, 2011.3

鹿又喜隆「付編3 地蔵田遺跡出土石器の機能研究と環状ブロック群形成の解釈」『秋田市地蔵田遺跡—旧石器時代編—』秋田市教育委員会 pp.182-192, 2011.3.

鹿又喜隆「石器の空間分布による廃棄・遺棄行動の解釈とその妥当性の検討 岩手県上萩森遺跡における遺物の空間構造」『旧石器考古学』74号 pp.61-75 2011.3

鹿又喜隆「細石刃集団による地域間の活動差」『東北文化研究室紀要』通巻52集、pp.182-200 2011.3

菅野智則「北上川流域における縄文集落の構造 複式炉と構成単位」、『日中交流の考古学』, 2007

菅野智則「北上川・馬淵川流域における晩期縄文集落の特徴」、『東日本縄文・弥生時代集落の発展と地域性』, 2007

菅野智則「東北地方縄文時代中期後半土器の研究 器形変化に関する属性分析」, 『考古学談叢』, 2007

菅野智則「北上川流域における縄文時代中期後半集落のあり方 分析の課題」, 『岩手県における縄文文化の諸相』, 2007

菅野智則「北上川流域における縄文時代中期後半集落の地域性」, 『博古研究』34, 2007

菅野智則「北上川流域の縄文社会 立地と分布からみた集落の変化」, 『東北縄文社会の歴史動態的研究 河川流域における縄文集落の考古学的研究』, 2008.1

Sano, Katsuhiko, Emergence and Mobility on Microblade Industries in the Japanese Islands. In Y. V. Kuzmin, S. G. Keates and C. Shen (Eds.), *Origin and Spread of Microblade Technology in Northern Asia and North America*, pp. 80-90, Burnaby, B.C.: Archaeology Press, Simon Fraser University, 2007.

佐野勝宏「石器集中部と住居範囲の空間的關係 ゲナスドルフの事例分析」『論

- 集忍路子』II： pp. 151-173, 2008.
- 佐野勝宏「ゲナスドルフの石器分布再考 - 住居跡、炉跡、動物遺存体、骨角器との空間的關係 - 」『小野昭教授退職記念シンポジウム - 考古学の方法論とその広がり - 』首都大学東京考古学研究室, pp. 28-31, 2009.
- Sano, Katsuhiko, Hunting evidence from stone artefacts from the Magdalenian cave site Bois Laiterie, Belgium: a fracture analysis. *Quartär* 56, pp. 67-86, 2009.
- 佐野勝宏・鹿又喜隆・村田弘之・阿子島香・柳田俊雄「山形県舟形町高倉山遺跡第1次発掘調査」『第24回東北日本の旧石器文化を語る会予稿集』:pp. 87-92, 2010
- 佐野勝宏「東北大学文学研究科所蔵考古資料による社会貢献と歴史資源アーカイブ 平成22年度事業報告と過去3年間の成果を振り返って」『歴史資源アーカイブ国際高度学芸員養成計画 平成20～22年度歴史資源アーカイブ成果報告書』東北大学大学院文学研究科歴史科学専攻：pp. 19-29, 2011
- 佐野勝宏「ヨーロッパにおける中期 - 後期旧石器時代移行期の新局面」『第3回研究大会 ネアンデルタールとサピエンス交替劇の真相: 学習能力の進化に基づく実証的研究』：p. 22, 2011
- 佐野勝宏・小野 昭「ヨーロッパにおける旧人石器群と新人石器群の消長と拡散」『日本考古学協会第77回総会 研究発表要旨』：pp. 168-169, 2011
- 佐野勝宏「彫器再考：彫刀面打撃の役割に関する機能論的検討」『旧石器研究』第7号：pp. 15-35, 2011
- Sano, Katsuhiko, Andreas Maier, & Stephan M. Heidenreich. Bois Laiterie revisited: Functional, morphological and technological analysis of Glacial hunting camp in north-western Europe. *Journal of Archaeological Science* 38: pp. 1468-1484, 2011
- 佐野勝宏「石器に残される狩猟痕跡認定のための指標」『考古学ジャーナル』614：pp. 20-25, 2011
- Sano, Katsuhiko, Mobility and Lithic Economy in the Terminal Pleistocene of Central Honshu. *Asian Perspectives* 49(2), in press
- Sano, Katsuhiko, Funktionsanalyse an Steinartefakten von Rietberg und Salzkotten-Thüle. In J. Richter (Ed.) *Monographien von Rietberg und Salzkotten-Thühle*. Cologne: Kölner Studen zur Prähistorischen Archäologie 2, in press

1-2 著書・編著

- 須藤隆（編著）『東日本縄文・弥生時代集落の発展と地域性』, 2007.3
- 阿子島香（編著）『ことばの世界とその魅力』, 東北大学出版会, 2008.4
- 阿子島香（共著）『考古学 その方法と現在』（第5章「層位学と年代」, 第9章「使用痕分析と実験考古学」, 第14章「遺跡内での遺物分布」, 「プロセス考古学とアメリカ考古学」）, 放送大学印刷教材, 国立印刷局, 2009.3
- 古田和誠・阿子島香（共編）『石巻市梨木畑貝塚出土資料』, 東北文化資料叢書第4集, 東北大学大学院文学研究科東北文化研究室, 2009.3
- 阿子島香・小原一成（編）『歴史資源アーカイブ国際高度学芸員養成計画 平成21年度院生プロジェクト成果報告書』東北大学大学院文学研究科歴史科学専攻, 277 p., 2011
- 阿子島香・小原一成（編）『歴史資源アーカイブ国際高度学芸員養成計画 平成21年度事業成果報告書』東北大学大学院文学研究科歴史科学専攻, 450 p., 2011
- 阿子島香・小原一成（編）『歴史資源アーカイブ国際高度学芸員養成計画 平成20～22年度歴史資源アーカイブ成果報告書』東北大学大学院文学研究科歴史科学専攻, 181 p., 2011
- 小原一成・阿子島香（編）『歴史資源アーカイブ国際高度学芸員養成計画 平成22年度事業成果報告書』東北大学大学院文学研究科歴史科学専攻, 520 p., 2011

1-3 翻訳、書評、解説、辞典項目等

- 阿子島香 『「技術的組織論」の観点による後期旧石器の機能に関する比較文化的研究』科学研究費補助金研究成果報告書, 2007
- 阿子島香 「須藤隆教授の業績と学風」, 『文化』, 第70巻3・4号, pp.1-5, 2007.3
- 阿子島香 「惜別・中橋彰吾先生を偲んで」, 『宮城考古学』9, p.197, 2007
- Toshio Yanagida, and Kaoru Akoshima, Preface: Research of the Early Palaeolithic Industry discovered at the Sozudai site, Oita Prefecture, Kyushu Japan. Bulletin of the Tohoku University Museum, No.7, 2007
- 阿子島香 「石器使用痕の解釈基準をめぐって」『石器使用痕研究会会報』8, pp.9-11, 2008.1
- 阿子島香 「貝塚・石器・石のゴミー菅野氏へのコメント」, 『東北文化研究室紀要』49, pp.46-47, 2008.3

- 阿子島香（協力）「クロマニヨン人が残した立体芸術」『NEWTON』, vol.28, no.6, pp.84-91, 2008.6
- 阿子島香 『文化人類学事典』（項目執筆「考古学」）, 日本文化人類学会編, 丸善出版, pp.267-268
- 阿子島香 「ミドルレンジセオリーと実験使用痕分析」『石器使用痕研究会会報』 10, p.4, 2010.3
- 傳田惠隆・村田弘之・芝康次郎・阿子島香 「東北大学基準資料の考え方」『石器使用痕研究会会報』 10, p.5-6, 2010.3
- 阿子島香・有光秀行・芳賀京子「『歴史資源アーカイブ国際高度学芸員養成計画』院生プロジェクト」『歴史資源アーカイブ国際高度学芸員養成計画 平成21年度院生プロジェクト成果報告書』東北大学大学院文学研究科歴史科学専攻：pp. 1-107, 2011
- 阿子島香「各専攻分野の活動（1）考古学専攻分野・文化財科学専攻分野」『歴史資源アーカイブ国際高度学芸員養成計画 平成21年度事業成果報告書』東北大学大学院文学研究科歴史科学専攻：pp. 2-3, 2011
- 阿子島香「大学院生海外研修実地指導（フランス）」『歴史資源アーカイブ国際高度学芸員養成計画 平成21年度事業成果報告書』東北大学大学院文学研究科歴史科学専攻：pp. 17-20, 2011
- 有光秀行・阿子島香・市川健夫「平成21年度『大学教育改革プログラム合同フォーラム』ポスターセッション参加報告について」『歴史資源アーカイブ国際高度学芸員養成計画 平成21年度事業成果報告書』東北大学大学院文学研究科歴史科学専攻：pp. 32-36, 2011
- 阿子島香「カリキュラムの概要」『歴史資源アーカイブ国際高度学芸員養成計画 平成21年度事業成果報告書』東北大学大学院文学研究科歴史科学専攻：pp. 190-191, 2011
- 阿子島香「キュレーター養成コース・アーキビスト養成コースへの登録」『歴史資源アーカイブ国際高度学芸員養成計画 平成21年度事業成果報告書』東北大学大学院文学研究科歴史科学専攻：pp. 194-228, 2011
- 阿子島香・鹿又喜隆「遺跡調査システムの導入について」『歴史資源アーカイブ国際高度学芸員養成計画 平成21年度事業成果報告書』東北大学大学院文学研究科歴史科学専攻：pp. 335-338, 2011
- 阿子島香・有光秀行・芳賀京子「歴史資源アーカイブ構築に関する取り組みの総括」

- 『歴史資源アーカイブ国際高度学芸員養成計画 平成 20～22 年度歴史資源アーカイブ成果報告書』東北大学大学院文学研究科歴史科学専攻：pp. 2-11，2011
- 村田弘之・阿子島香「長崎県福井洞穴出土資料の歴史資源アーカイブ構築」『歴史資源アーカイブ国際高度学芸員養成計画 平成 20～22 年度歴史資源アーカイブ成果報告書』東北大学大学院文学研究科歴史科学専攻：pp. 30-40，2011
- 村田弘之・阿子島香「芹沢資料の歴史資源アーカイブ」『歴史資源アーカイブ国際高度学芸員養成計画 平成 20～22 年度歴史資源アーカイブ成果報告書』東北大学大学院文学研究科歴史科学専攻：pp. 41-51，2011
- 阿子島香・芳賀京子・泉 武夫・有光秀行・大藤 修・河合 安・小原一成・中村里那「歴史科学専攻分野における大学院 GP の取組」『歴史資源アーカイブ国際高度学芸員養成計画 平成 22 年度事業成果報告書』東北大学大学院文学研究科歴史科学専攻：pp. 11-23，2011
- 阿子島香「国際シンポジウム 『フランス考古学の現在』」『歴史資源アーカイブ国際高度学芸員養成計画 平成 22 年度事業成果報告書』東北大学大学院文学研究科歴史科学専攻：pp. 26-35，2011
- 阿子島香「国際セミナー・歴史資源ワークショップ Analytical method of stone tools in France」『歴史資源アーカイブ国際高度学芸員養成計画 平成 22 年度事業成果報告書』東北大学大学院文学研究科歴史科学専攻：p. 51，2011
- 阿子島香「ロシア科学アカデミー・シベリア支部との大学院生教育交流」『歴史資源アーカイブ国際高度学芸員養成計画 平成 22 年度事業成果報告書』東北大学大学院文学研究科歴史科学専攻：pp. 66-75，2011
- 阿子島香「カリキュラムの概要」『歴史資源アーカイブ国際高度学芸員養成計画 平成 22 年度事業成果報告書』東北大学大学院文学研究科歴史科学専攻：pp. 82-83，2011
- 阿子島香「院生プロジェクトの総括」『歴史資源アーカイブ国際高度学芸員養成計画 平成 22 年度事業成果報告書』東北大学大学院文学研究科歴史科学専攻：pp. 260-261，2011
- 阿子島香「大学院 GP による取組と歴史科学専攻」『歴史資源アーカイブ国際高度学芸員養成計画 平成 22 年度事業成果報告書』東北大学大学院文学研究科歴史科学専攻：pp. 510-516，2011
- 阿子島香「東北大学におけるキュレーター養成の展望」『歴史資源アーカイブ国

- 際高度学芸員養成計画 平成 22 年度事業成果報告書』東北大学大学院文学研究科歴史科学専攻：pp. 517-518，2011
- 鹿又喜隆・村上裕次「2006 年の動向 旧石器時代（東北）」、『考古学ジャーナル』558，pp.8-10，2007.5
- 鹿又喜隆・柳田俊雄・阿子島香・市川健夫・小原一成・村田弘之「山形県丸森 1 遺跡第二次発掘調査の概要」、『東北史学会 2009 年度大会発表要旨』p.2 2009.10.3
- 鹿又喜隆「福島県笹山原 No.27 遺跡の細石刃石器群の機能研究」『石器使用痕研究会会報』10 号 pp.7-8 2010.3.20
- 鹿又喜隆「2008 年度の日本考古学会 4 旧石器時代研究の動向」『日本考古学年報』61 巻 pp.22-28 2010.5.20
- 鹿又喜隆・柳田俊雄・阿子島香・佐野勝宏・村田弘之・傳田惠隆「山形県丸森 1 遺跡第三次発掘調査の概要」、『東北史学会 2010 年度大会発表要旨』p.2 2010.10.3
- 鹿又喜隆「放射性炭素年代測定」『計量分科会会誌』vol.18 No.2 pp.6-7, 2010.10.
- 鹿又喜隆・村田弘之・傳田惠隆・小原一成・五十嵐愛「国際フィールドスクール『山形県真室川町埋蔵文化財調査実習』報告」『歴史資源アーカイブ国際高度学芸員養成計画 平成 21 年度事業成果報告書』東北大学大学院文学研究科歴史科学専攻：pp. 131-136，2011
- 鹿又喜隆「Paleolithic of the Russian Far East/ Neolithic of the Russian Far East アンドレイ・ターバレフ氏」『歴史資源アーカイブ国際高度学芸員養成計画 平成 21 年度事業成果報告書』東北大学大学院文学研究科歴史科学専攻：pp. 159-175，2011
- 鹿又喜隆「Middle Neolithic of the Maritime region (Primorye): Sites Cultures, Landscape アレクサンダー・ポポフ氏」『歴史資源アーカイブ国際高度学芸員養成計画 平成 21 年度事業成果報告書』東北大学大学院文学研究科歴史科学専攻：pp. 176-187，2011
- 鹿又喜隆・佐野勝宏・村田弘之・傳田惠隆・五十嵐愛・曹 曉匀「国際フィールドスクール『山形県真室川町埋蔵文化財調査実習』」『歴史資源アーカイブ国際高度学芸員養成計画 平成 22 年度事業成果報告書』東北大学大学院文学研究科歴史科学専攻：pp. 36-46，2011
- 鹿又喜隆「河南省許昌靈井遺跡の調査と研究」『歴史資源アーカイブ国際高度学

芸員養成計画 平成 22 年度事業成果報告書』東北大学大学院文学研究科歴史科学専攻：pp. 56-65，2011

鹿又喜隆「放射性炭素年代測定と考古学的应用」『計量分科会誌』vol.19 No.1 pp.1-3, 2011.4.

鹿又喜隆「2010 年の歴史学界 —回顧と展望— 日本 考古 — 旧石器時代」『史學雑誌』第 120 編 第 5 号 pp.11-16, 2011.5.

菅野智則「縄文人の「ゴミ」と集落」、『東北文化研究室紀要』49, pp.44-45, 2008.3

菅野智則・山本直人・宮尾亨・岩崎厚志・松井章「アメリカ オレゴン州 サンケン・ビレッジ遺跡-コロンビア川河畔のドングリ貯蔵穴の調査」、『考古学研究』54-4, pp.120-123, 2008.3

1-4 口頭発表

須藤隆「縄文から弥生へ 東北考古学の回顧そして展望」, 須藤隆先生最終講義(於東北大学), 2007.3.10

阿子島香「ジオアーケオロジーとセトルメントアーケオロジーの接点 - 欧米での研究から - 」『多摩川流域の考古学的遺跡の成立と古環境シンポジウム・土と遺跡 - 時間と空間 予稿集』, pp.34-35, 於調布市, 2007.1.27

阿子島香「歴史資源としての考古資料 - 石器を中心に - 」『公開シンポジウム・歴史資源としての史料分析の現在 第 1 回』, 東北大学大学院文学研究科, 2007.3.13

阿子島香「石器使用痕の解釈基準をめぐって」『石器使用痕研究会 第 12 回研究会』, 於東京都立大学, 2007.3.24

Akoshima, Kaoru. Recent Research on the Early Palaeolithic of Japan. Paper presented at 72nd annual meeting of the Society for American Archaeology. Austin, Texas, Abstract for papers, pp.34-35. April 29, 2007

Akoshima, Kaoru. Academic exchange in the field of archaeology. International symposium of the 15th anniversary of the academic exchange agreement between Tohoku University and Siberian Branch of Russian Academy of Sciences. Section meeting. Sendai Internatinal Center, August 24, 2007

阿子島香「ヨーロッパ南西部における更新世末期の環境変動と人類活動 - マドレーヌ文化の事例を中心に - 」, 『第 2 回 年代測定と日本文化研究 シンポジウム予稿集』, pp.70-73, 加速器分析研究所, 於福島県文化センター

白河館まほろん, 2007.9.9

Akoshima, Kaoru. Recent Developments of Micro Use-wear Studies on Stone Tools in Japan. 古代香港与東亜 於香港中文大學中國文化研究所中國考古藝術研究中心考古博物館創館, November 21, 2007

阿子島香 「貝塚・石器・石のゴミ 菅野氏へのコメント」, 『2007年度 東北文化研究室公開シンポジウム』, 2007.12

Akoshima, Kaoru. Lithic microwear analysis in Japanese prehistoric studies : Functional interpretation and technological organization. Paper presented at 73rd annual meeting of the Society for American Archaeology (Vancouver), March 30, 2008

Akoshima, Kaoru. A perspective of microwear analysis of ground stone tools.

Paper presented at a symposium, 「古代玉器研究方法探索」研討會, 於香港中文大學文物館, April 10, 2008

Akoshima, Kaoru. Lithic microwear analysis toward a more integral approach to function and technology as "micro-traceology". Paper presented at 74nd annual meeting of the Society for American Archaeology. Atlanta, Georgia, April 24, 2009

阿子島香 「遺跡内の遺物分布から旧石器人の活動を探る 考古学と民族学の接点」, 日本考古学協会設立 60 周年記念・仙台市富沢遺跡旧石器発見 20 周年記念講演会, 2009.2

Akoshima Kaoru, Yanagida Toshio. Research of the Early Palaeolithic Industry discovered at the Sozudai site, Oita Prefecture, Kusu, Japan. International Symposium on Palaeoanthropology in Commemoration of the 80th Anniversary of the Discovery of the First Skull of Peking Man and the first Asian Conference on Quaternary Research Beijing, 21 October, 2009

阿子島香 「サハリン調査、その後の 70 年」 『東北大学総合学術博物館 ミュージアムトーク 2009 先史学フロンティア - 東北大学からの発進 - 』, 2009.2.21

阿子島香 「ミドルレンジセオリーと実験使用痕分析」 『石器使用痕研究会』, 2009.3.7, 東北大学.

傳田惠隆・村田弘之・芝康次郎・阿子島香 「東北大学基準資料の考え方」 『石器使用痕研究会』 2009.3.7, 東北大学.

Akoshima, Kaoru. Site structure patterns in Magdalenian rockshelter terrace deposits at the Abri Dufaure, Les Landes, France. The Graduate GP International Symposium:

- Technological Evolution through the End of the Paleolithic –a Comparative Perspective from France. April 3, 2010. Tohoku University.
- Akoshima, Kaoru. Technological organizations and lithic use-wear: Impacts on East Asian prehistory. Paper presented at 75th annual meeting of the Society for American Archaeology (St. Louis), April 16, 2010.
- Akoshima, Kaoru. Lithic use-wear analysis: Method and theory now and then. The 15th International Symposium: Suyanggae and Her Neighbours. May 23, 2010, Suyanggae Prehistory Museum (Danyang, Korea).
- 阿子島香 「『歴史資源アーカイブ国際高度学芸員養成計画』（大学院G P）の目指すもの」『第5回博物科学会（大学博物館等協議会 2010 年度大会）特別講演』, 2010.6.24 東北大学総合学術博物館,(要旨集 p.13-14.)
- 阿子島香 「『歴史資源アーカイブ国際高度学芸員養成計画』の概要について」『第5回博物科学会（大学博物館等協議会 2010 年度大会）』, 2010.6.24 東北大学総合学術博物館,(要旨集 p.29.)
- 阿子島香 「日本文化のあけぼの：旧石器時代から縄文時代へ」『東北大学 2010 年度訪問講座』ロシア・ノボシビルスク国立大学東洋学部, 2010.10.7
- Akoshima, Kaoru. Integrating lithic microwear data with site structure analysis: an organizational approach. The 3rd Asian Paleolithic Association International Symposium. October 13, 2010. Gonju, Korea.
- 阿子島香 「早水台遺跡下層出土の石器群について」『国際シンポジウム 東アジアの旧石器文化と早水台遺跡』, 別府大学創立 60 周年記念第 14 回文化財研究所文化財セミナー, 2011.2.13
- Akoshima, Kaoru, and Yanagida Toshio. Bifacial Elements in the Japanese Early Palaeolithic industry: the Sozudai site, Kyushu Island. The 2nd International Symposium of Bifaces of the Lower and Middle Pleistocene of the World, in celebration for the opening of Jeongok (Chongok) Prehistory Museum, Gyeonggi, Korea, 2011.5.2
- Akoshima, Kaoru. Prehistoric Stone Tool Function and Technological Organization in Northeast Japan. (於) 台湾中央研究院歴史語言研究所, 2011.6.2
- 鹿又喜隆「更新世末から完新世初頭にみられる人類の環境適応 - 東日本の事例から - 」, 宮城考古学会総会・研究発表会, 2007.5.20, (於) 仙台市エルパーク 21

- 鹿又喜隆「東北地方における土器出現期の様相」，第 2 回シンポジウム 年代測定と日本文化研究，2007.9.9，（於）福島県文化財センター白河館
- 鹿又喜隆「発掘調査におけるサンプリングの実践と遺跡形成過程の研究 - 福島県笹山原 No.16 遺跡の平安時代住居跡とローム層包含層の調査成果をもとに - 」，第 3 回シンポジウム 年代測定と日本文化，2008.9.20，（於）福島県文化財センター白河館
- 鹿又喜隆「東北地方における定住化のプロセス - 旧石器時代終末から縄文時代前期にかけて - 」，シンポジウム『東北縄文前期社会における集落と生業』平成 20 年文部科学省オープン・リサーチ・センター整備事業「東北地方における環境・生業・技術に関する歴史動態的総合研究」，2008.10.18，（於）東北芸術工科大学
- 鹿又喜隆「福島県笹山原 No.27 遺跡の細石刃石器群の機能研究」，第 14 回石器使用痕研究会，2009.3.7，（於）東北大学
- 鹿又喜隆「定住・定着化プロセスからみた東北地方の縄文前期（予察）」，『東北縄文社会と生態系史』平成 21 年文部科学省オープン・リサーチ・センター整備事業「東北地方における環境・生業・技術に関する歴史動態的総合研究」，2009.7.11（於）東北芸術工科大学
- 鹿又喜隆「定住・定着化プロセスからみた東北地方の縄文前期」，日本考古学協会 2009 年度山形大会，2009.10.18，（於）東北芸術工科大学
- 鹿又喜隆・柳田俊雄・阿子島香・市川健夫・小原一成・村田弘之「山形県丸森 1 遺跡第二次発掘調査の概要」，東北史学会 2009 年度大会・考古学部会 2009.10.3，（於）東北大学
- 鹿又喜隆 2010「日本列島における後期旧石器時代初頭の概要と課題」，平成 22 年度宮城県考古学会・特集「日本列島の人類文化はどこまで遡るか この 10 年間の主要な調査遺跡の概要と課題を中心に - 」，2010.5.16
- 鹿又喜隆・柳田俊雄・阿子島香・佐野勝宏・村田弘之・傳田惠隆「山形県丸森 1 遺跡第三次発掘調査の概要」，東北史学会 2010 年度大会・考古学部会 2010.10.3，（於）山形大学
- Kanomata Yoshitaka Functional Versatility of Tools in Microblade Industries
Diversity of the Asian Palaeolithic Culture: Recent Progress and New Trends The 3rd Asian Palaeolithic Association International Symposium,
2011.10. 12 in Gongju city, Korea

- 鹿又喜隆「放射性炭素年代測定」第36回計量分科会, 2010.10.15
- 鹿又喜隆「後期旧石器時代前半期石器群の機能的考察」第24回東北日本の旧石器文化を語る会 2010.12.18 (於) 秋田市中央公民館
- 鹿又喜隆「山形県内の発掘調査」平成23年度山形県考古学会 2011.8.6 (於) 寒河江市文化センター
- Kanomata Yoshitaka and Akoshima Kaoru Site Structure and Human Behavior at the Araya site, Northeastern Japan *The 16th International Symposium: SUYANGGAE and Her Neighbours in Nihewan* 2011.8.15 in Yangyuan County, Hebei Province, China
- 菅野智則「北上川流域における縄文時代中期後半集落のあり方」, 2007年岩手考古学会第38回研究大会, 2007
- 菅野智則「北上川流域における縄文時代中期後半集落の地域性 炉跡からみた地域的様相」, 東北史学会, 2007
- 菅野智則「縄文人の「ゴミ」と集落」, 『2007年度東北文化研究室公開シンポジウム』, 2007.12
- 菅野智則「北上川流域の縄文社会 立地と分布からみた集落の変化」, 『東北縄文社会の歴史動態的研究 河川流域における縄文集落の考古学的研究』, 2008.1
- Sano, Katsuhiko, Lithic Raw Material Utilisation in Central Honshu during the Terminal Pleistocene, *SAA (Society for American Archaeology) 72nd Annual Meeting*, Austin, US, April, 2007.
- Sano, Katsuhiko, Spurenanalyse des Oberkreide-Feuersteins von Gönnersdorf KII: Untersuchungsmethode und Fragestellungen, *Dialoge zur Pleistozänen Archäologie Vortrags- und Diskussionsforum*, Neuwied, Germany, October, 2007.
- Sano, Katsuhiko, Lithic evidence for hunting in the Magdalenian at Bois Laiterie Cave, Belgium, *50. Hugo Obermaier-Gesellschaft, Tagung der Gesellschaft*, Erlangen, Germany (March 2008)
- Sano, Katsuhiko, Prospective Functional Analysis of Lithic Artefacts at Neumark-Nord, Neumark-Nord 4th Workshop, Neuwied, Germany, July, 2009.
- 佐野勝宏「ゲナスドルフの石器分布再考 - 住居跡、炉跡、動物遺存体、骨角器との空間的關係 -」, 『小野昭教授退職記念シンポジウム - 考古学の方法論とその広がり -』, 於首都大学東京, 2009.3.

Sano, Katsuhiko, Lithic Utilisation Strategies in Magdalenian of North-Western Europe, *Joint-Colloquium between Universities Cologne and Nanterre*, Paris, France, November, 2009.

Sano, Katsuhiko, Erste Ergebnisse der Gebrauchsspurenanalysen von Neumark-Nord 2, *Paläoumwelt, Geochronologie und Archäologie der mittelpaläolithischen Fundstelle Neumark-Nord*, Halle, Germany, March, 2010.

佐野勝宏・鹿又喜隆・村田弘之・阿子島香・柳田俊雄「山形県舟形町高倉山遺跡第1次発掘調査」『第24回東北日本の旧石器文化を語る会』, 秋田: 秋田市中心公民館, 2010年12月18 - 19日

佐野勝宏「人類移動の考古学的痕跡」『観光の起源に関する学際的研究～ヒトはなぜ旅するのか』, 沖縄: 沖縄県立博物館, 2011年3月10～11日

佐野勝宏「ヨーロッパにおける中期-後期旧石器時代移行期の新局面」『ネアンデルタールとサピエンス交替劇の真相: 学習能力の進化に基づく実証的研究』科学研究費補助金新学術領域研究「交替劇」第3回研究大会, 東京: 学術総合センター, 2011年4月 23 - 24日

佐野勝宏・小野 昭「ヨーロッパにおける旧人石器群と新人石器群の消長と拡散」『旧人・新人の石器製作学習行動を探る』日本考古学協会第77回総会研究発表セッション5, 東京: 國學院大學, 2011年5月28 - 29日

Sano, Katsuhiko, Functional Variability in Magdalenian of North-Western Europe, *XVIII. INQUA (International Union for Quaternary Research) Congress 2011*, Bern, Switzerland, July 22nd - 27th, 2011

Sano, Katsuhiko, Yoshitaka Denda, & Masayoshi Ohba, Experiments in fracture patterns and impact velocity with replica projectile points from Japan, *Multidisciplinary Scientific Approaches to the Study of Stone-Age Weaponry*, Mainz, Germany, September 19th - 22nd, 2011

2 教員の受賞歴 (2007～2011 年度)

なし

教員による競争的資金獲得 (2007～2011 年度)

(1) 科学研究費補助金

2007 年度

菅野智則 助教

若手研究 B 『縄文時代集落構造の研究-考古学資料の定量化と可視化-』（研究代表者）, 2,500,000 円

2010 年度

佐野勝宏 助教

研究活動スタート支援 『東アジアにおける狩猟法の発展に関する実験考古学的研究』（研究代表者）, 1,573,000 円

2011 年度

鹿又喜隆 准教授

若手研究(B) 『トライボロジーによる石器機能推定の高確度化とその応用による先史狩猟採集民研究』（研究代表者）, 1,170,000 円

佐野勝宏 助教

研究活動スタート支援 『東アジアにおける狩猟法の発展に関する実験考古学的研究』（研究代表者）, 1,430,000 円

新学術領域研究 『考古資料に基づく旧人・新人の学習行動の実証的研究』（研究分担者）, 1,500,000 円

(2) その他

阿子島香 教授

2008 年 文部科学省・大学院教育改革支援プログラム（大学院 G P） 『歴史資源アーカイブ国際高度学芸員養成計画』 東北大学大学院文学研究科・歴史科学専攻（取組実施担当者代表）

鹿又喜隆 准教授

2009 年度 斎藤報恩会研究助成金 「AMS-¹⁴C 年代測定の援用による旧石器時代の高精度編年研究」, 450,000 円

菅野智則助教

2007 年 度斎藤報恩会研究助成金 陸奥国における瓦生産開始期の研究（分担）, 250,000 円

教員による社会貢献（2007～2011 年度）

須藤隆 教授

文化財保護審議会第三専門調査委員会委員

宮城県文化財保護審議会委員（～2007年度）
仙台市文化財保護審議会委員
宮城県多賀城跡調査研究所発掘調査委員会委員長
仙台市史編纂委員会専門委員
仙台市郡山遺跡発掘調査指導委員会委員
大船渡市史跡大洞貝塚発掘調査指導委員会委員
国史跡慧日寺整備指導委員会委員
国史跡山王罍遺跡整備計画策定委員会
斎藤報恩会自然史博物館評議員

阿子島香 教授

仙台市市民文化事業団理事（2004～現在）
宮城県文化財保護審議会委員（2008～）
宮城県特別名勝松島保存管理計画策定会議委員（2008～）
白石市民大学（宮城県白石市教育委員会）講師(2006)

鹿又喜隆 准教授

「考古学基礎研修 まほろん収蔵の考古基準資料(旧石器)」講師(2009.5)
みやぎ県民大学講師（2011.8）

教員による学会役員等の引き受け状況（2007～2011年度）

須藤隆 教授

日本考古学会幹事（2004～）
考古学研究会全国委員（2004～）
東北史学会評議員（2005～）
東北大学文学部考古学研究会代表（2004～2006）

阿子島香 教授

東北史学会評議員（2004～）
東北大学文学部考古学研究会代表（2007～）
東北日本の旧石器文化を語る会役員（2008～）
日本旧石器学会役員（2010～）

鹿又喜隆 准教授

東北日本の旧石器文化を語る会役員（2008～）

東北史学会評議員（2009～）

宮城県考古学会総務幹事（2010～）

菅野智則 助教

宮城県考古学会会誌幹事会委員(2004～)

博古研究会委員（2004～）

教員の教育活動

（1）学内授業担当（2011年度）

1 大学院授業担当

鹿又喜隆 准教授

考古学研究実習 （1学期）「考古学の調査と資料分析」

考古学研究実習 （2学期）「考古学資料法」

考古学特論 （2学期）「日本考古学の諸問題」

考古学研究演習 （1学期）「考古学研究史」

考古学研究演習 （2学期）「考古学の方法と理論」

2 学部授業担当

鹿又喜隆 准教授

考古学概論 （3セメスター）「日本考古学概説（1）」

考古学基礎実習 （3セメスター）「考古学資料の観察と記録」

考古学各論 （6セメスター）「日本考古学の諸問題」

考古学演習 （5セメスター）「考古学の研究史」

考古学演習 （6セメスター）「考古学の方法と理論」

考古学実習 （5セメスター）「考古学の調査と資料分析」

考古学実習 （6セメスター）「考古学資料分析法」

佐野勝宏 助教

考古学基礎講読（4セメスター）

考古学講読（5セメスター）

3 共通科目・全学科目授業担当

なし

(2) 他大学への出講(2007～2011年度)

阿子島香 教授

放送大学分担協力講師「考古学」(2007～2008年度)